

試料・情報利用研究計画書(概要)

審査委員会 受付番号	2020-3002	利用形態	共同研究	利用する 試料・情報	対象:東北メディカル・メガバンク計画地域住民コホート参加者のうち、600例を目標に、既往歴でがん記載した者、または追跡調査でがん罹患が判明した者を症例群とする。同様に3,000例を目標に既往歴でがん記載していない者を対照群とする。 試料:なし 情報:ゲノム多型データ、遺伝子発現データ、性、年齢、喫煙、飲酒情報、がん罹患歴等、がん発症に関連する情報、及びその共変数。追跡調査によるがん発症データ。	
主たる研究機関	熊本大学大学院 生命科学研究部 老化・健康長寿学講座			分担 研究機関	岩手医科大学 いわて東北メディカル・メガバンク機構	
研究題目	Necroptosis関連遺伝子のゲノム多型情報と発がん率の相関性の調査			研究期間	医学部倫理委員会承認日～ 2022年3月31日	
実施責任者	三浦 恭子	所属	熊本大学 大学院生命科学研究部 老化 健康長寿学講座		職位	准教授
研究目的と意義	これまでのマウスの研究によって、細胞壊死 (Necroptosis) 経路が炎症を引き起こすことで発がんを促進する可能性が報告されています。本研究ではヒトにおいて、この経路が発がんに関連するかを明らかにするため、細胞壊死に関連する遺伝子について、発現・機能に影響を与える遺伝的多型と発がん率の相関を調査します。					
研究計画概要	<p>1. 公開データベース上に存在する、遺伝子発現量に関連する多型 (eQTL) 情報と、東北メディカル・メガバンク計画が収集し、今後分譲を開始するものを含む、遺伝子発現データと同ゲノム多型データを基にした eQTL解析結果から、細胞壊死に関連する遺伝子の発現差につながる候補多型を抽出します。</p> <p>2. 抽出した候補多型を基に、東北メディカル・メガバンク計画において収集され、今後分譲開始されるものを含む、ゲノム・コホートデータを利用して、細胞壊死に関連する遺伝子の発現差につながる多型と、がん発症率との関連を統計的手法で解析します。</p>					
期待される成果	これにより、がん発症率と細胞壊死に関連する遺伝子の発現差につながる多型との関連を見つけることができれば、発がん率と細胞壊死経路の活性との新たな関係性が明らかとなり、将来的にこの経路を抑制する方法を開発することで、がんの予防法の発展が見込まれます。					
これまでの倫理 審査等の経過	熊本大学医学部 倫理審査委員会通常審査 (2020年2月承諾) 岩手医科大学医学部 倫理審査委員会迅速審査にて承認 (令和2年7月)					
倫理面、セキュリ ティ面への配慮	本研究は文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に従って実施します。また、個人情報保護の観点から検体情報を匿名化した上で厳重に管理し、個人情報の漏洩を防ぐ体制を維持します。					
その他特記事項	本研究課題は熊本大学AMED委託研究開発費にて実施します。本研究課題に関連し、研究代表者および研究分担者は関係する企業等から個人的及び大学組織的な利益は得ておらず、開示すべき利益相反はありません。					
* 公開日	令和2年7月20日					